

### 1 自己評価及び外部評価結果 (東ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102871		
法人名	医療法人 社団 久誠会		
事業所名	鏡島弘法前ケアセンター (東ユニット)		
所在地	岐阜県岐阜市鏡島1293-2		
自己評価作成日	平成22年 6月28日	評価結果市町村受理日	平成22年 8月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102871&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102871&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1
訪問調査日	平成22年 7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と連携しており状態の異変時、緊急の場合にはドクターに連絡し対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度になり、今まで業務から管理まですべて行っていた管理者の業務を、新旧管理者で役割分担を決めてホームの運営に努めていた。これにより、旧管理者は次世代の人材育成の時間に費やすことが可能となった。また、季節の良い時期には日帰り旅行を取り入れて、気分転換の機会を作るように努力している。徐々にレベル低下していく利用者が多い中で、理念にある「いつまでも元気な生活」を継続するために、散歩やレクリエーション・医療との密な連携に取り組んでいる。利用者の言葉やご家族アンケートにあるように「ずっといつまでもここで暮らしたい」とのうれしいお言葉も多くあがっている。今後も、地域とともに暮らすホームであるということにより多くの地域住民に理解してもらい、広く世の中に理解されるホームであることを期待している。
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝、運営理念を唱和し入所者一人一人に合ったケアが提供できるよう意見交換をおこなっている。</p>	<p>「いつまでも元気で生活できるようお手伝いします」という法人理念をホームにも掲げている。ホームでは、衣食住・医療の観点から元気に生活できるケアに努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の自治会に加入しており、資源分別回収に協力している。天気の良い日は、弘法様に散歩行き、その途中に地域の人から挨拶がある。</p>	<p>1階デイサービスを利用する地域の高齢者とレクレーションの中で接する機会があり、利用者は楽しみにしている。また、地域自治会に加入して近隣と協力して生活する姿勢を表している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>見学の申し入れがあった時は随時、見学をしていただいています。弘法前通信を発行して、地域の回覧に載せていただき認知症の理解に努めています。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、意見を参考にしている。避難訓練を実施した後の話し合いでも緊急時にはすぐに駆けつけます、とってくださいました。</p>	<p>運営推進会議の中で、ホームをより理解してもらうための1つとして、昼食会や避難訓練等を会議と合わせて行っている。職員からは、「会議の議題やメンバー収集に限界を感じる」との声があった。</p>	<p>今後は、目標達成計画を作成 会議の中で発表し、意見や協力を求める 実施結果報告を行う。そして、ホームのさらなる発展を支える委員会メンバーを、広く募り運営推進会議から展開した事例を期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>月1回の利用者状況の報告を行っている。運営推進会議には毎回参加をいただいています。</p>	<p>市町村担当者は、運営推進会議には必ず参加があり、意見交換が行われている。法人での関わりが多く、ホーム独自の関係性は少ない。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人で月1回の身体拘束と事故対策委員会が行われており利用者の安全を常に話し合っている。身体拘束マニュアルが作成されている。</p>	<p>法人全体で行われている、身体拘束委員会・事故対策委員会に参加している。主に事例検討を行っており、他の事例を聞く機会も多くある。委員はホームへ事例を持ち帰り、結果を報告・検討してケアに活かしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>6番と同じで利用者に異変があった時は、即、原因を追求している。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員から、研修報告書を提出してもらい全職員が把握できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約となった時はグループホームでの生活状況を話して理解を求め、介護度の変更があった場合は料金変更がある事を説明し納得してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明をするときに家族の意見や要望を聞き、納得をしていただいている。その他にも家族からの要望があればそれをプランに取り入れている。	面会時や電話等で家族の意見を聞き入れている。運営推進会議に家族の参加を促し、家族からの意見を聞き出している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを行い意見を出し、話し合っている。一人ひとりの意見に対し実践し、改善をおこなっている。	前ホーム長が、業務と新ホーム長のサポート役を努めている。したがって、職員は意見や提案を出しやすい環境にあり、双方の利点を活かすことが可能となった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金の受給申請済み。給与水準においては、今年度内にキャリアパスを構築予定。その他に各職員5年毎に1度のリフレッシュ休暇が提供されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度からはキャリアパスの構築に伴いそのレベルにあった研修に参加が出来る取り組みを行っていく。法人内での各委員会の勉強会も継続をしていく。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度は他のグループホームとの交流を目標にしていたが実現できなかった。今年度は13番での研修やその他での研修参加時に他施設の職員と交流を図っていくように一人一人が努力をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人が困っていること、不安なこと、要望など本人の意見を尊重し行動を見守りながら、又、会話の中で何を希望されているのか把握するようつとめている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、家族の要望を聞き本人の様子をみながら希望にそうプランを立てるようつとめている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の要望を取り入れつつ本人の残存機能を生かせる支援を常に検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、共に作業したり、会話の中で昔の習慣や知恵を学ぶことがある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族との日帰り旅行や夏祭りの参加などで、家族との関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や散歩等はするが遠距離の方は馴染みの場所にはいけず面会や家族との外出を呼びかけている。毎月21日の弘法様の縁日にはまれに知人、友人に出会うこともある。	若い頃から毎月の縁日が習慣になっていた利用者は、縁日に出かけて古い友人と出会い、立ち話を楽しんでいる。	馴染みの方との付き合いを継続していくためにも、縁日で出会った友人をホームへ招くなど関係を断ち切らない生活ができるような取り組みに期待したい。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや誕生会を毎月実施し、他のユニットの利用者との交流を深めている。又、気の合う人同士の席を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	G、Hから病院に入院後、法人の老健に入所された方々に必要に応じフォローをしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は、衛生面や事故のリスクを考慮したうえで、出来るだけ取り入れるように努めている。	職員は生活の中で、利用者が発する言葉や思いを会話や雰囲気の中から推察を行っている。利用者の思いを具体化できる取り組みは構築されていない。	日々聞きとっている本人・家族の思いを、ケアプランに書き込んでいく。そして、家族や利用者を変えて検討できるような場を設けることで、隠れた思いの把握が可能となることを期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から、生活暦や生活環境、これまでのサービス利用の経過等を把握して、それに沿ったケアを提供できるようにミーティングで話し合っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に勧めてみて出来る作業はしてもらい、負担になるときは、無理強いせず出来ることを探っている。現状は持続性がなくなってきた人もみえる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のミーティングではその日の状況、毎月のミーティングでは状況の変化、問題行動を話し合いそれに沿ってプランを立てている。	職員が担当制のために、利用者の細かな把握や新しい気づきを得ることができている。介護計画の相談は、家族面談が困難な環境にあるため主に電話でのやりとりが行われている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に加え、朝のミーティングや毎月のミーティングできずきを話し合い、ケアの変更が生じた場合は申し送りノートに記載をして全職員が把握したうえでケアにあたっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの薬局での買い物、毎月21日に催される弘法様の日に出向き、沢山の人ごみや賑わい出店の昔懐かしい品々を見たり食べたりして昔話に花が咲く。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の三浦医院に定期受診すると共に本人、家族等の希望に応じて、かかりつけ医に受診してもらっている。又、本人の病状に合わせて、それに適した医療機関に受診していただいている。	入居時にかかりつけ医を利用者了承の上で、運営母体の医療法人に変更している。急変時の対応等に迅速に対応できる利点があり、利用者及び家族からの信頼は厚い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており服薬管理、介護職は利用者の日々の変化を事細かに報告をし健康管理につとめている。病状に合わせて医療機関とも連携し受診をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は法人のドクターが家族と相談し、医療機関を紹介している。医療機関との相談や情報交換は当診療所を通じて密に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族とドクターと話し合い、本人の病状と思いを聞きながら対応している。	家族と終末期のあり方について相談した上で、看取りを行った事例がある。提携医が、随時往診に駆けつける等の対応を行い、家族が悔いの残らないような看取りの方法に取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し事務所に1部と各職員全員が持っている。また勉強会を開きAEDの取り扱い方法や鏡島分署を招き蘇生訓練を行い実践力の向上に努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ケアセンター全体での避難訓練、夜間想定避難訓練を年1回おこなった。夜間想定避難訓練は運営推進会議時に行い地域の方々にも協力をえた。	夜間想定避難訓練を行い、ケアセンター全体の消防訓練に力を入れている。避難方法を消防署とも相談し、安全な避難に取り組んでいる。また、運営推進会議と合わせて訓練を行う機会を作り、地域防災について深めるきっかけ作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人で接遇委員会を設置しており、言葉づかいの改善に取り組んでいる。	法人主体の接遇委員会では、利用者へのプライバシーについての研修を行っており、人権尊重の姿勢を法人全体で取り組んでいる。ホームでは、日々の声かけなどで職員同士で意識し合い、改善に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの会話や行動、表情などからその時の思いを感じ取り支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や行動、習慣、今考えていることを察知しながら支援している。理解力のある人には直接聞いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない人には持っている衣類の中から、毎回同じ洋服にならないように清潔感、体にあった物、また本人の好みも聞きいれ支援する。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備やテーブル拭きなど利用者の協力を得ながら行っているが体調不良を訴え拒否をされる方も見られる様になった。	野菜の下ごしらえ等、以前は積極的に行っていた方が、体調不良を理由にできなくなるケースもある。職員は、どんなときも一緒に食事を楽しみたいとの思いから、食卓を共に囲みコミュニケーションを図っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを「食事のバランスガイド」参考にして調理をしている。又、体調や嗜好にあわせ両ユニットで協力をしている。たまには利用者のリクエストに応じることもある。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	認知が進み嗽の出来なくなった人以外はその人の能力に応じ毎食後、洗面台に行き見守り一部介助、全介助にて歯磨き入れ歯洗いをこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表のチェックを行い一人一人の排泄時間に合わせて誘導を行っている。記録表にて職員間の申し送りを実施している。	常時紙パンツを利用していた利用者へ、生活・排泄パターンを記録・観察を行った。その結果、日中は布パンツ対応で排泄行為がほぼ自立となった喜ばしい事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜や生野菜を多く使用し副食を作ったり、水分の摂取量等に気を配っている。身体能力に合わせ自転車(室内用)ごぎをしていたり適度な運動を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日の梅の湯を楽しみにしている利用者がみえる。西ユニットは排泄が自立している人が少ないので個浴、筋力低下のある人は機械浴にて無理のない入浴支援をおこなっている。	日曜日にはデイサービスの大浴場に入り、大きな湯船を楽しむことができる。また、入浴拒否の利用者へは、誘導する時間を調整してストレスなく入浴する支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールでの様子を見ており休息が必要な人は、居室に案内をして休んで頂いている。20時以降は不穏状態に応じホールにて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態に少しでも異変が見られると看護師に定期薬の変更があったのかと尋ねたり、薬剤情報を見たりして異変の原因を追求している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年齢を重ねるにつれ軽作業が出来なくなってきた方にも声かけをし簡単な事でも手伝っていただくようにしている。毎月21日の弘法様の日、月2回行け花教室、O.Tによる習字等、その人の能力や希望にて参加をしていただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は弘法様まで散歩に出かけたり21日の弘法様の日には買い物を楽しんだり、田楽を食べたりして縁日を楽しむ人もいる。年2回の家族旅行を行っているが、身体的な低下、家族の事情等もあり全員の参加ができなくなってきた。	毎月21日の弘法さまの縁日を利用者は楽しみにしている。利用者の体力を考えると、日常の範囲内でふらりと外に出ることができる縁日が外出するきっかけとなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月21日の弘法様に出かけたとき、バス旅行に行ったときには、本人が支払うように支援している。一人の利用者には、毎月5,000円渡しており近くの薬局や弘法様の日に欲しい物を買っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があればいつでも支援している。手紙を書いて出すことが出来る人は現在みえません。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には職員が毎月一般の年間行事や、季節感を取り入れたカレンダーを作り掲載している。又、観葉植物や草花で季節を感じていただくようにしている。	食堂には利用者合作の大きなカレンダーが飾られている。季節の花を意識した構図で美しく描かれていた。玄関には日帰り旅行の楽しい思い出がコメントと共に飾られている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームの中で気の合った利用者同士で過ごしたり、家族、知人が来設された時もサンルームにて過ごして頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家で使用していた物を持参して頂くようお願いをしている。居室のボードには思い出の写真や本人の作品が貼ってある。	以前から使っていたタンスや椅子を持ち込み、個々の落ち着ける空間作りをしている。家族の写真や、置物からも利用者の個性や若い頃の思い出を感じ取ることができた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが取りつけてあり安全に配慮をしている。汚物室や浴室をトイレと勘違いをして入ってしまうので、使用後は必ずドアを閉めておく。		

### 1 自己評価及び外部評価結果 (西ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102871		
法人名	医療法人 社団 久誠会		
事業所名	鏡島弘法前ケアセンター 西ユニット		
所在地	岐阜県岐阜市鏡島1293-2		
自己評価作成日	平成22年 6月28日	評価結果市町村受理日	平成22年 8月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102871&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102871&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成22年 7月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と連携しており状態の異変時、緊急の場合にはドクターに連絡し対応している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>毎朝、運営理念を唱和し入所者一人一人に合ったケアが提供できるよう意見交換をおこなっている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の自治会に加入しており、資源分別回収に協力している。天気の良い日は、弘法様に散歩行き、その途中に地域の人から挨拶がある。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>見学の申し入れがあった時は随時、見学をしていただいています。弘法前通信を発行して、地域の回覧に載せていただき認知症の理解に努めています。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は3ヶ月に1回開催し、意見を参考にしている。避難訓練を実施した後の話し合いでも緊急時にはすぐに駆けつけます、と一言いただきました。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>月1回の利用者状況の報告を行っている。運営推進会議には毎回参加をいただいています。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人で月1回の身体拘束と事故対策委員会が行われており利用者の安全を常に話し合っている。身体拘束マニュアルが作成されている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>6番と同じで利用者に異変があった時は、即、原因を追求している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加した職員から、研修報告書を提出してもらい全職員が把握できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約となった時はグループホームでの生活状況を話して理解を求め、介護度の変更があった場合は料金変更がある事を説明し納得してもらっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明をするときに家族の意見や要望を聞き、納得をしていただいている。その他にも家族からの要望があればそれをプランに取り入れている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを行い意見を出し、話し合っている。一人ひとりの意見に対し実践し、改善をおこなっている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金の受給申請済み。給与水準においては、今年度内にキャリアパスを構築予定。その他に各職員5年毎に1度のリフレッシュ休暇が提供されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度からはキャリアパスの構築に伴いそのレベルにあった研修に参加が出来る取り組みを行っていく。法人内での各委員会の勉強会も継続をしていく。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年度は他のグループホームとの交流を目標にしていたが実現できなかった。今年度は13番での研修やその他での研修参加時に他施設の職員と交流を図っていくように一人一人が努力をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人が困っていること、不安なこと、要望など本人の意見を尊重し行動を見守りながら、又、会話の中で何を希望されているのか把握するようつとめている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、家族の要望を聞き本人の様子をみながら希望にそうプランを立てるようつとめている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、本人の要望を取り入れつつ本人の残存機能を生かせる支援を常に検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、共に作業したり、会話の中で昔の習慣や知恵を学ぶことがある。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族との日帰り旅行や夏祭りの参加などで、家族との関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や散歩等はするが遠距離の方は馴染みの場所にはいけず面会や家族との外出を呼びかけている。毎月21日の弘法様の縁日にはまれに知人、友人に出会うこともある。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや誕生会を毎月実施し、他のユニットの利用者との交流を深めている。又、気の合う人同士の席を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	G、Hから病院に入院後、法人の老健に入所された方々に必要に応じフォローをしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向は、衛生面や事故のリスクを考慮したうえで、出来るだけ取り入れるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話の中から、生活暦や生活環境、これまでのサービス利用の経過等を把握して、それに沿ったケアを提供できるようにミーティングで話し合っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に勧めてみて出来る作業はしてもらい、負担になるときは、無理強いせず出来ることを探っている。現状は持続性がなくなってきた人もみえる。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝のミーティングではその日の状況、毎月のミーティングでは状況の変化、問題行動を話し合いそれに沿ってプランを立てている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に加え、朝のミーティングや毎月のミーティングできずきを話し合い、ケアの変更が生じた場合は申し送りノートに記載をして全職員が把握したうえでケアにあたっている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズは可能な範囲で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月21日に催される弘法様の日に出向き沢山のゴミや賑わいを見ていただき昔を思い出していただけるように支援をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の三浦医院に定期受診すると共に本人、家族等の希望に応じて、かかりつけ医に受診してもらっている。又、本人の病状に合わせて、それに適した医療機関に受診していただいている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されており服薬管理、介護職は利用者の日々の変化を事細かに報告をし健康管理につとめている。病状に合わせて医療機関とも連携し受診をしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は法人のドクターが家族と相談し、医療機関を紹介している。医療機関との相談や情報交換は当診療所を通じて密に行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は家族とドクターと話し合い、本人の病状と思いを聞きながら対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し事務所に1部と各職員全員が持っている。また勉強会を開きAEDの取り扱い方法や鏡島分署を招き蘇生訓練を行い実践力の向上に努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ケアセンター全体での避難訓練、夜間想定避難訓練を年1回おこなった。夜間想定避難訓練は運営推進会議時に行い地域の方々にも協力をえた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人で接遇委員会を設置しており、言葉づかいの改善に取り組んでいる。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの会話や行動、表情などからその時の思いを感じ取り支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状態や行動、習慣、今考えていることを察知しながら支援している。理解力のある人には直接聞いている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来ない人には持っている衣類の中から、毎回同じ洋服にならないように清潔感、体にあった物、また本人の好みも聞きいれ支援する。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の準備やテーブル拭きなど利用者の協力を得ながら行っているが体調不良を訴え拒否をされる方も見られる様になった。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかを「食事のバランスガイド」参考にして調理をしている。又、体調や嗜好にあわせ両ユニットで協力をしている。たまには利用者のリクエストに応じることもある。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	認知が進み嚥の出来なくなった人以外はその人の能力に応じ毎食後、洗面台に行き見守り、一部介助、全介助にて歯磨き、入れ歯洗いをおこなっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録表のチェックを行い一人一人の排泄時間に合わせて誘導を行っている。記録表にて職員間の申し送りを実施している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜や生野菜を多く使用し副食を作ったり、水分の摂取量等に気を配っている。身体能力に合わせ自転車(室内用)ごぎをしていたり適度な運動を促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日の梅の湯を楽しみにしている利用者がみえる。西ユニットは排泄が自立している人が少ないので個浴、筋力低下のある人は機械浴にて無理のない入浴支援をおこなっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールでの様子を見ており休息が必要な人は、居室に案内をして休んで頂いている。20時以降は不穏状態に応じホールにて対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の状態に少しでも異変が見られると看護師に定期薬の変更があったのかと尋ねたり、薬剤情報を見たりして異変の原因を追求している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年齢を重ねるにつれ軽作業が出来なくなってきた方にも声かけをし簡単な事でも手伝っていただくようにしている。毎月21日の弘法様の日、月2回行け花教室、O.Tによる習字等、その人の能力や希望にて参加をいただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は弘法様まで散歩に出かけたり21日の弘法様の日には買い物を楽しんだり、田楽を食べたりして縁日を楽しむ人もいる。年2回の家族旅行を行っているが、身体的な低下、家族の事情等もあり全員の参加ができなくなってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月21日の弘法様に出かけたとき、バス旅行に行ったときには、本人が支払うように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人の希望があればいつでも支援している。手紙を書いて出すことが出来る人は現在みえません。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には職員が毎月一般の年間行事や、季節感を取り入れたカレンダーを作り掲載している。又、観葉植物や草花で季節を感じていただくようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サンルームの中で気の合った利用者同士で過ごしたり、家族、知人が来設された時もサンルームにて過ごして頂いている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に家で使用していた物を持参して頂くようお願いをしている。居室のボードには思い出の写真や本人の作品が貼ってある。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが取りつけてあり安全に配慮をしている。汚物室や浴室をトイレと勘違いをして入ってしまうので、使用後は必ずドアを閉めておく。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災時の避難訓練を実施する。 幾つかの出火場所を想定したマニュアルを作成する。	各マニュアルに沿った避難手順を把握し、スムーズに避難訓練ができる。	平成22年8月31日までに西、東ユニットのキッチン、東浴室、ガス給湯器の3ヶ所を発火点としたマニュアルを作成する。 平成22年9月1日 東ユニット、給湯器 平成22年8～9月 西ユニット、キッチン 平成22年8～9月 東ユニット、キッチン 以上、3ヶ所を発火点とした避難訓練を実施する。	36ヶ月
2	19	年2回の家族との日帰り旅行を行っているが、家族の参加が減少している。 (利用者の家族環境からもきている。)	利用者と家族の絆を大切にしながら職員と家族の交流を深める。	家族会の開催 平成23年8月 開催予定	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。